

令和2年度 施策評価シート

まちづくりの目標	6	丹波力を活かした創意ある元気なまち
施策目標	4	【恐竜】恐竜を活かしたまちづくりの輪を広げよう
施策の展開	① ② ③	① につぼん恐竜協議会を活かした全国的な取組の展開 ② 丹波竜化石工房の更なる充実 ③ 発見現場の活用

施策担当課	恐竜課
関係課	恐竜課

1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・教育普及専門員の配置、展示内容の充実により化石工房の機能拡充を図り、誘客のコア施設である元気村かみくげの石割発掘体験と連携することで交流人口が増加しています。 ・新たなワークショップや学習プログラムの開発により、学校教育、社会教育に活用しています。 ・恐竜を活かしたネットワークの拡大として、恐竜化石を活かしたまちづくりを行っている自治体と連携協力を強化し、恐竜を活かしたまちづくりが推進されています。
----------	--

2 成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
成果指標	丹波竜化石工房への年間延べ来場者数	人	目標	66,000	66,000	66,000	66,000	66,000	70,000	
			実績	59,472	52,326					
	丹波竜ホームページの年間延べアクセス数	ビュー	目標	130,000	130,000	150,000	230,000	230,000	230,000	
			実績	165,833	221,531					
			目標							
			実績							
コスト	人件費	千円	実績	32,200	41,640	41,640	41,640	41,640	41,640	
	事業費	千円	実績	65,778	42,942	45,409	45,409	45,409	45,409	
	計	千円	実績	97,978	84,582	87,049	87,049	87,049	87,049	
	うち一般財源	千円	実績	69,530	75,762	71,993	71,993	71,993	71,993	

※評価年度は実績、計画年度は予算

3 環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	—
市民ニーズの動向	丹波竜ミュージアム構想を見直すことになったため、化石工房のあり方について方向性を検討していく必要がある。

4 評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	令和2年度の丹波竜化石工房年間入館者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響(化石工房の4月～5月の閉館、来館者の自粛等)により目標値より減となった。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・発見現場周辺の整備については、地元の協力を得ながら、恐竜化石だけでなく、自然豊かな自然環境を活かすとともに、発掘現場と化石工房との連携をより強め、体験学習を通じ自然や人々の豊かさや大切さを再認識しながら化石などについてより深く学べるような事業を推進していく。 ・教育普及専門員による、展示内容の充実や教育普及活動により化石工房の機能拡充を図る。 ・篠山層群のフィールドミュージアム構想に基づき、明確な役割分担の下、連携を強化する。 ・化石工房の充実については、エデュテインメイト(楽しみながら学ぶ)を基本として、セミナーやワークショップの充実と共に、市民をはじめとした幅広い年齢層の来訪者が集う魅力ある施設づくりを進める。
事業の構成や役割分担で見直しの余地がないか。	—

5 今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	<ul style="list-style-type: none"> ・につぼん恐竜協議会を活かしたネットワークの拡大(北海道むかわ町・熊本県御船町・群馬県神流町、兵庫県丹波篠山市、福井県勝山市、岩手県久慈市、徳島県勝浦町との連携協力)。 ・発見現場周辺の地元管理体制の調整と確立。 ・人と自然の博物館や県民局、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会との連携。 ・丹波竜化石工房の今後のあり方について教育普及を含め検討。 ・「丹波竜」及び「丹波竜のちーたん」の普及啓発。
-------------------------	---

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	恐竜を活かしたまちづくり事業		
事業担当課	産業経済部 恐竜課	事業期間	平成 18 ~ 無期 年度
	所属長 田原 弘義	担当 難波 善友	担当

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【6】丹波力を活かした創意ある元気なまち
		施策目標	4【恐竜】恐竜を活かしたまちづくりの輪を広げよう
	創生総合戦略	基本目標	【3】地域の魅力や人のつながりを活かして移住・定住につなげる
		施策	【3-2】 地域資源の魅力を活かす
	まちづくりビジョン	取組項目	(7)観光による地域振興
	根拠法令・個別計画等	丹波竜の里計画	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	小中学生、高校、大学生、市民、観光客	
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波竜の里計画に基づいて完成した「丹波竜の里」を基本に、地域資源を発掘、活用した体験型学習施設により誘客を増やす。 ・自然や篠山層群の環境を通じ、学校教育、社会教育に活用する。 ・恐竜を活かしたネットワークの拡大を図ると共に丹波市の恐竜を活かしたまちづくりを推進していく。 	
	概要 (具体的手段・全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・篠山層群を活用した環境学習等(ワークショップ・自然学校等)を実施する。 ・化石工場の充実を図り、誘客のコア施設、そして上久下地区での石割発掘体験との連携により交流人口を増やす。 ・恐竜を活かしたネットワークの拡大として、恐竜化石を活かしたまちづくりが行われている自治体と連携協力をを行い、より一層の本市の恐竜を活かしたまちづくりを推進していく。 ・教育普及専門員の配置、展示内容の充実により化石工場の機能拡充を図る。 	
	令和2年度の事業概略	丹波竜活用事業	令和3年度の事業概略

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A+B	79,048	51,364	56,727	56,727	56,727	56,727				
	直接事業費A	59,230	26,553	31,916	31,916	31,916	31,916				
	総人件費計(E+H) B	19,818	24,811	24,811	24,811	24,811	24,811				
	職員従事者数(人・年) C	2,07	2,38	2,38	2,38	2,38	2,38				
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460				
	人件費 E=C×D	15,318	17,755	17,755	17,755	17,755	17,755				
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	2,25	2,99	2,99	2,99	2,99	2,99				
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H=F×G	4,500	7,056	7,056	7,056	7,056	7,056					
歳入	特定財源	23,305	3,918	11,144	11,144	11,144	11,144				
	国・県支出金	17,184	3,646	10,579	10,579	10,579	10,579				
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0				
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0				
	その他特財	6,121	272	565	565	565	565				
一般財源	55,743	47,446	45,583	45,583	45,583	45,583					
実施 (DO)	指標名	単位	目標実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	成果	丹波竜化石工房年間入館者数	人	目標	66,000.0	66,000.0	66,000.0	66,000.0	660,000.0	70,000.0	
				実績	59,472.0	52,326.0					
	成果	発掘現場への来場者数	人	目標	31,000.0	31,000.0	31,000.0	42,000.0	42,000.0	42,000.0	
				実績	39,305.0	41,666.0					
	活動	ちーたん着ぐるみ貸出・出演数	回	目標	130.0	130.0	130.0	130.0	130.0	130.0	
				実績	74.0	24.0					
	成果	丹波竜HPアクセス数	回	目標	130,000.0	130,000.0	150,000.0	230,000.0	230,000.0	230,000.0	
				実績	165,833.0	221,531.0					
	コスト			目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	指標の推移等の背景・分析		令和2年度の丹波竜化石工房年間入館者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響(化石工房の閉館、来館者の自粛等)により目標値より減となった。								

事務事業名	恐竜を活かしたまちづくり事業				
事業担当課	産業経済部 恐竜課	事業期間	平成 18 ~ 無期	年度	

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	地域資源 (丹波竜の里・篠山層群) を有効に活用した事業を展開する事で、丹波市・発掘現場・化石工房の来訪者の誘引が図れる。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		B	・社会資本整備統合交付金事業等で整備した恐竜化石発掘現場周辺や化石工房の展示物の充実を図ってきた結果、目標指標として、一定の成果をみた。 ・夏期・冬期の特別展の開催、広報等を実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく臨時休館したことにより、入館者数は減となった。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	丹波竜を含む篠山層群から発見された地域資源については、地域だけのもので無く、丹波市の財産であることから、特定のものに対して事業負担金を徴するものではない。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)																														
		<ul style="list-style-type: none"> ・発掘現場周辺の整備については、地元の協力を得ながら、恐竜化石だけでなく、自然豊かな自然環境を活かすとともに、発掘現場と化石工房との連携をより強め、体験学習を通じ自然や人々の豊かさや大切さを再認識しながら化石などについてより深く学べるような事業を推進していく。 ・教育普及専門員による、展示内容の充実や、教育普及活動により化石工房の機能拡充を図る。 ・篠山層群のフィールドミュージアム構想に基づき、明確な役割分担の下、連携を強化する。 ・化石工房の充実については、エデュティンメイト (楽しみながら学ぶ) を基本として、セミナーやワークショップの充実と共に、市民をはじめとした幅広い年齢層の来訪者が集う魅力ある施設づくりを進める。 																													
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性																													
	<ul style="list-style-type: none"> ・「つぼん恐竜協議会を活かしたネットワークの拡大。(北海道むかわ町・熊本県御船町・群馬県神流町、兵庫県丹波篠山市、福井県勝山市、岩手県久慈市、徳島県勝浦町との連携協力) ・発掘現場周辺の地元管理体制の調整と確立。 ・人と自然の博物館や県民局、丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会との連携。 ・丹波竜化石工房の今後のあり方について検討。 ・「丹波竜」及び「丹波竜のちーたん」の普及啓発。 	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大																									
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>皆減</td> <td>縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		皆減	縮小	現状維持	拡大	拡充				✓	現状維持					縮小					休廃止					コスト投入の方向性			
	皆減	縮小	現状維持	拡大																											
拡充				✓																											
現状維持																															
縮小																															
休廃止																															

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	丹波竜活用事業	26,553	31,916	31,916	31,916	31,916	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	26,553	31,916	31,916	31,916	31,916	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	丹波電施設管理事業		
事業担当課	産業経済部 恐竜課	事業期間	平成 25 ~ 無期 年度
	所属長 田原 弘義	担当 難波 善友	担当

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【6】丹波力を活かした創意ある元気なまち
		施策目標	4【恐竜】恐竜を活かしたまちづくりの輪を広げよう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等		

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	小中学生、高校、大学生、市民、観光客		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	拠点施設である丹波電化石工房、恐竜化石発見現場の適正な維持管理を行う。		
	概要 (具体的手段・ 全体計画)	丹波電化石工房、上滝発電所記念館の管理及び運営、恐竜化石発見現場周辺の維持管理		
	令和2年度の 事業概略	丹波電施設管理事業	令和3年度の 事業概略	丹波電施設管理事業

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考			
(評価年度は実績、計画年度は予算)											
歳出	総事業費 A+B	18,930	33,218	30,322	30,322	30,322	30,322				
	直接事業費A	6,548	16,389	13,493	13,493	13,493	13,493				
	総人件費計(E+H) B	12,382	16,829	16,829	16,829	16,829	16,829				
	職員従事者数(人・年) C	0.93	1.62	1.62	1.62	1.62	1.62				
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460				
	人件費 E=C×D	6,882	12,085	12,085	12,085	12,085	12,085				
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	2.75	2.01	2.01	2.01	2.01	2.01				
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360				
人件費 H=F×G	5,500	4,744	4,744	4,744	4,744	4,744					
歳入	特定財源	5,143	4,902	3,912	3,912	3,912	3,912				
	国・県支出金	535	248	0	0	0	0				
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0				
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0				
	その他特財	4,608	4,654	3,912	3,912	3,912	3,912				
一般財源	13,787	28,316	26,410	26,410	26,410	26,410					
実施 (DO)	指標名	単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	成果	旧上久下村営上滝発電所の不具合・トラブル件数	件	目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
				実績	0.0	0.0					
	成果	丹波電化石工房の不具合・トラブル件数	件	目標	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
				実績	0.0	0.0					
				目標							
				実績							
	コスト			目標							
				実績							
	コスト			目標							
実績											
指標の推移等の背景・分析	夏期・冬期特別展の開催について広報等を実施したが、新型コロナウイルス感染拡大による閉館などの影響で化石工房の利用者は減少した。										

事務事業名	丹波竜施設管理事業			
事業担当課	産業経済部 恐竜課	事業期間	平成 25 ~ 無期	年度

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
	(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	適正な施設の維持管理運営を行うことで、発見現場・化石工房の来訪者の誘引が図れた。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	B	丹波竜の里公園の管理コストの増及び県工事負担金として、篠山川の法面復旧工事にかかる新たなコストが増となった。
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	A	適正な丹波竜化石工房の館及び発見現場周辺施設の維持管理運営を図ってきた結果、トラブルや不具合はなかった。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	丹波竜化石工房及び発見現場周辺施設は、特定の者だけが利用する施設でなく、本市の財産であることから、特定の者に対して事業負担金を徴するものではない。ただし入館料として、大人210円、小中学生100円を徴収しており、恐竜ワークショップや化石セミナー受講者からは受講料を徴収している。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）					
	<ul style="list-style-type: none"> 発見現場周辺整備に伴い管理範囲が拡大したが、コミュニティビジネスの創設など地域が自立できる仕組づくりを支援し、地域主体の管理体制を維持していく。 平成22年にリニューアルオープンしてから10年が経ち、施設や展示物が老朽化し、特別展の開催などの展示スペースも手狭になっている。 					
	今後の方向性・改善策等		成果・コストの方向性			
<ul style="list-style-type: none"> 発見現場周辺の地元管理体制の調整と確立。 丹波竜化石工房の管理、運営等活用方針の検討。 		成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大
			拡充			
			現状維持		✓	
			縮小			
		休廃止				
コスト投入の方向性						

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	丹波竜施設管理事業	16,389	13,493	13,493	13,493	13,493	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
合計		16,389	13,493	13,493	13,493	13,493	